

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	佐賀県立太良高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の生徒の特性に対する理解は深まりつつあり、なお一層、生徒理解や特性理解を推し進め、特別支援教育の専門性向上に努めるとともに、生徒の進路実現のための取組を推進する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な学校行事が制限を受けたが、日頃からの健康観察などに努め、できる限り実施する方向で取り組んだ。その結果、体育祭、文化祭ともに実施でき、また、修学旅行は感染予防を徹底した上で無事実施した。 ・いじめの未然防止及び早期対応、生徒の健康増進を一層図ることにより、安全安心な学校生活の確保に努めていく。 ・通級指導成果発表会やSAGAコラボレーションスクール成果発表会など、学校の取り組みを外部にアピールする機会を得た。今後も継続していきたい。
2 学校教育目標	校訓「自律」の精神を培い、知・徳・体のバランスを高め、社会に貢献できる心身ともに健全な清々しい人間を育成する。

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自分で考え責任を持つ主体力(=真の学力)を育成する。 ②生徒自身の創造性を育み、答えのない問題に向き合う心、「志」を高める。 ③地域に学び、地域から愛され、地域と共生する学校を実現する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			担当者	
(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗度と見通し	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒個々人の能力や特性に応じたきめ細やかな指導の充実	○授業研究週間の年間2回以上の実施 ○ICT機器等を活用した授業を心掛けた教員90%	・少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、リメディアル教育を通し、授業改善を推進する。 ・プリント教材の精選や、ICT機器の効果的な活用を進め、生徒の学習への動機づけを図る。	A	・少人数指導やチームティーチングを通し、多様な生徒に応じた授業を行った。 ・電子黒板や学習用PCを効果的に使用し、生徒の学習の動機付けや理解を助けている。 ・授業改善の推進について、96%の教員が「十分に、またはある程度できた」と回答した。	A	・授業改善の推進について、ほぼ全員の教員が肯定的な回答をしたことから、十分に達成できている。 ・学習用PCの更なる効果的な使用が望まれる。	教務主任 進路指導主事 各教科主任
	○多様な評価方法に対応できる指導方法の研究実践	○多様な学び(UDL)の研究に取り組んだと回答した教員90% ○生徒が「授業が分かり易い」と回答した割合が95%	・「主体的、対話的で深い学び」の実現のための教材開発・授業実践を推進する。 ・「できる授業」を推進し、相互研修のための授業研究会を年間2回以上実施する。	A	授業の中で「できた」「わかった」と回答した生徒は95%であり、積極的に授業に参加できたという回答した生徒も94%であった。今後も生徒が主体的に学ぶための仕組み作りを研究していくことが必要であると考え。	A	・多様な学び(UDL)は、今後、教職員が意識して授業改善していかなければならないものと思います。生徒のアンケート結果で高い評価が出ていることから、多様な指導方法の実践ができている。	教務主任 ICT活用推進リーダー 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育推進教師を中心とする道徳教育推進のための職員研修会1回以上実施 ○Q-U等を活用した生徒面談1回以上実施	・人権尊重のための講演会を実施する。 ・「情報」やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。 ・客観的な検査指標を利用した生徒理解を推進する。 ・月1回以上の生徒支援委員会を通じた生徒理解・特性理解や支援を推進する。 ・SCの活用を通じて、生徒の支援体制の充実を図る。	A	・Q-Uや教育相談アンケート等を利用した生徒面談を年2回行い、生徒の状況の早期把握・対応に努めた。 ・毎月生徒支援委員会を行い、生徒の状況や必要な支援についての職員間の共通理解が深まった。 ・SCの助言を職員間で共有する枠組み整備は前進したため、さらなる活用が課題である。	A	・生徒の状況の早期把握・対応に努めていただいた結果、安心できる居場所になっている。 ・生徒に寄り添い、理解し、支援して頂いていることが心の教育につながっている。 ・今後もQ-Uテスト等を活用し、生徒の心の状態に寄り添ったり、学級集団作り等に活かしたりして行ってほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 「情報」担当者 教育相談部副主任 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○佐賀県いじめ防止基本方針の理解及び組織的な対応の実践が「よくできている」と回答した教職員90%以上	・学校生活アンケートを年2回以上実施する。 ・いじめ防止に関する保護者への啓蒙活動を充実させる。 ・いじめ防止に関する職員研修会を実施する。	A	・6月、12月に保護者・生徒に対し学校生活アンケート(いじめアンケート)を実施した。 ・いじめは早期発見、早期対応できており、52件の覚知をすることができた。また、3か月を目途に経過観察を行い、いじめの解消を確認した。	A	・いじめの早期発見・対応についてしっかりと取り組んでいただいている。生徒の日々の変化に気づけるよう、家庭とのさらなる連携が大事。 ・スクールロイヤーによるいじめ防止に関する職員研修を実施したり、いじめ認知について丁寧に対応をしたり、良い取組ができている。	生徒指導主事 教育相談部副主任 各学年主任
	○「志」を高める教育の推進	○「体験学習」や「郷土学習」、佐賀に関わる講演会等を通して、「佐賀に愛着を持って」と回答した生徒80%以上 ○体験的活動や部活動等により、自己肯定感が高まったと回答した生徒80%以上	○「体験学習」や「郷土学習」、佐賀に関わる講演会等を通して、「佐賀に愛着を持って」と回答した生徒80%以上 ○体験的活動や部活動等により、自己肯定感が高まったと回答した生徒80%以上	・「体験学習」や「郷土学習」を計画的に実施する。「佐賀語り」の活用や佐賀に関する講演会を通して佐賀に対する愛着心を育む機会を充実させる。 ・体験的活動や部活動等を充実させる。	A	「体験学習」については、昨年度の反省を生かし、事前・事後の取り組み内容を充実させることができた。また、「郷土学習」は計画通りに実施できた。	A	・「体験授業」や「郷土学習」での地元の人たちとの交流が生徒の成長にとても有効なことが分かるので、ご協力いただいている方々への感謝を生徒自らしっかりと伝えられるとよい。 ・町内や近隣の市町と連携を図りながら、良い体験学習が実施できている。成果発表も素晴らしいであった。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●規則正しい生活習慣(起床、就寝等の時間)を身につけ、十分な睡眠時間の確保65%以上	・月2回の健康調査を通し、自己の体調管理を把握させる。 ・いじめ防止に関する保護者への啓蒙活動を充実させる。 ・保健だよりを通じて、望ましい生活習慣の啓蒙を図る。	A	・12月に2回目の健康に関する調査を実施。調査において6時間以上の睡眠時間を確保している生徒は65%で数値目標は達成したものの、前回の6月より低くなっているため、原因の考察、啓蒙の工夫を試みたい。	A	・規則正しい生活習慣が身につく、十分な睡眠時間を確保するとどんなに良いかを知らせるとか、アプリを活用して睡眠の質を知るとか。 ・睡眠時間を指標に挙げているところが良い。	保健主事 養護教諭 食育推進担当者
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上 ●朝食をとって登校する生徒70%以上 ●食育の講演会を1回以上する	・朝食アンケートや外部講師を招き、健康教育を充実させる。 ・食に関する意識調査を実施する。	A	・12月に2回目の食事、健康に関する調査を実施。「健康に良い食事をしている」と79.5%の生徒が回答した。「毎日3回食事をすると77%の生徒が解答している。食育を含めた健康に関する講話を実施した。	A	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成には日頃の生活が影響しているため、保護者と一緒に考えていく機会を作ってみてはどうか。 ・朝食欠食の理由が気になった。	保健主事 養護教諭 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●時間外自発勤務1カ月40時間以内 ●年次休暇14日以上取得	・定時退勤日を設定する。(毎週水曜・金曜) ・学校開庁日を設定する。(8月8日～12日) ・部活動休養日を設定する。	A	・定時退勤日は、水か金の都合のよい日と現状に配慮した。 ・時間外自発勤務時間については、今年度の目標を40時間/月としており、職員平均は24.5時間で、昨年度比1時間40分増であった。 ・令和5年の年休取得目標は14日であったが、職員一人当たりの平均取得日数は14.1日で、目標を達成できた。	A	・業務改善は大きな改革は難しいかもしれませんが、小さなことを積み重ねて業務効率化ができるとよい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗度と見通し	評価		意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数8人以上	・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・魅力ある教育プログラムを実践する。 ・校内組織を立ち上げ、高校魅力化の取組を強化する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。	A	・学校運営協議会を年6回(7月、9月、11月、12月)「SAGAコラボレーション・スクール成果発表会」と兼ね、2月開催した。 ・中学校訪問では、県外2校を含む延べ43校の学校を訪問し、学校の説明と広報に努めた。 ・学校案内パンフレット(改訂版)を作成した。	A	・教職員の割合、県外からの入学者数の成果指標を満たしていませんが、唯一無二の誇り高き学校づくりについて、本協議会を通して、先駆的な取り組みを行われており、成果指標外の取り組みが充実しており、それらを鑑み、成果指標に対して十分達成できていると判断できる。	企画研修部主任 主幹教諭
○広報活動の充実	○魅力的な情報発信の継続 ○中学校、保護者、地域社会から信頼を得るための取組の推進	○学校通信「HOT通信」の月2回以上の発行 ○学校説明会、体験入学、オープンキャンパス参加者の前年度比10%増	・掲載内容を精選し、充実した内容で学校の魅力をPRできる学校通信を製作し発行する。 ・学校設定科目を中心とした特色ある体験授業を実施する。	A	・HOT通信の定期発行(年19回)を通して学校の魅力を十分にPRできた。 ・9月の太良町たらふくマルシェ、11月の太良町文化祭、12月のSAGAコラボレーション・スクール成果発表会等を通して積極的に地域に広報活動ができた。 ・太良町社会福祉協議会との連携で1月から始まった福祉施設、病院等での「太良高校生によるボランティア活動」により、生徒の自主的な活動を促進することができた。	A	・学校説明会、体験入学、オープンキャンパスの成果指標を満たしていませんが、9月の太良町たらふくマルシェなど、その他において積極的な広報活動を実施していることから、成果指標に対して十分達成できていると判断できる。	企画研修部主任 主幹教諭
○通級指導の実践	○自立活動の理解と実践 ○計画的な情報発信の実践	○自立活動の基礎知識に関する周知率90%以上 ○自立活動選択者の授業満足度90%以上	・月1回以上の通級指導委員会を通し、生徒に関する情報を共有する。 ・自立活動に関する教職員研修会を実施する。	A	毎月1回、通級指導委員会を開催し、生徒の状況把握とその共有、支援の推進に繋げることができた。 ・職員研修会を通して、特性への理解や個の状況把握が向上し、日々の生徒支援に活かされている。	A	・専門的知識の必要な活動であるので、日々研修に取り組んでいただきたい。 ・毎月の通級指導委員会や、自立活動に関する教職員研修会を実施されたりと、担当者だけでなく他の職員へも共有されているところが良い。	通級指導(自立活動)担当者

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修会や講演会を通して、生徒の特性に対する教職員の理解を深めることができた。今後も特別支援教育の専門性向上に努めていきたい。 ・いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努めることにより、安全安心な学校生活の確保に取り組むことができた。 ・学校運営協議会も2年目を迎え、委員の構成等の見直しを進めた結果、活発な意見交換がなされ、唯一無二の誇り高き学校づくりについても先駆的な取り組みを行うことができ、より充実した一年となった。今後も体験学習などこれまでの地域とのつながりを継続しながら、地域とコラボした課題解決型事業に取り組んでいきたい。 ・今年度も、太良町文化祭やSAGAコラボレーションスクール成果発表会など、学校外への広報活動を積極的に進めることができた。今後も継続していきたい。
----------------	---